

朝日ヶ丘幼稚園敷地における幼保連携型認定こども園の整備計画説明会の開催について

日 時	平成30年7月3日（火） 10:00～10:40										
場 所	朝日ヶ丘集会所										
出 席 者	<table> <tr> <td>こども・健康部長</td> <td>三井 幸裕</td> </tr> <tr> <td>教育委員会管理部長</td> <td>岸田 太</td> </tr> <tr> <td>こども・健康部子育て推進課長</td> <td>伊藤 浩一</td> </tr> <tr> <td>こども・健康部主幹新制度推進担当</td> <td>和泉 みどり</td> </tr> <tr> <td>教育委員会管理部管理課長</td> <td>山川 範</td> </tr> </table>	こども・健康部長	三井 幸裕	教育委員会管理部長	岸田 太	こども・健康部子育て推進課長	伊藤 浩一	こども・健康部主幹新制度推進担当	和泉 みどり	教育委員会管理部管理課長	山川 範
こども・健康部長	三井 幸裕										
教育委員会管理部長	岸田 太										
こども・健康部子育て推進課長	伊藤 浩一										
こども・健康部主幹新制度推進担当	和泉 みどり										
教育委員会管理部管理課長	山川 範										
事 務 局	こども・健康部子育て推進課 教育委員会管理部管理課										
参 加 者 数	7人										

1 次第

- (1) 開会
- (2) 説明
- (3) 質疑応答
- (4) 閉会

2 配布資料

当日配布資料

3 議事録

(事務局和泉) はじめに、2頁、資料1として、朝日ヶ丘幼稚園敷地における認定こども園の整備の方向性についての説明会と、関連があります岩園保育所大規模改修用の仮園舎の説明会において、いただいた主な意見と市の考えをまとめました。時間の都合もありますので、抜粋してご説明いたします。

岩園保育所の保護者説明会、翠ヶ丘集会所での説明会では、仮園舎の出入口（門扉）が、踏切近くで道幅も狭く危険であるというご意見が多くありました。

安全対策としては、出入口部分を道路から後退させ、一時的に駐輪ができるスペースを確保する設計変更をすることと、月～金曜日の朝夕各2時間、1名のガードマンの配置を行うこととしました。後日、市民の方からの情報提供といたしまして、踏切の遮断状況について、朝7時から7時30分までの間、21回遮断機が1分間ずつ降りるほど、電車が行きかっている状況で危険であり、踏切が通れるのは30分間のうち9分間だけで、車での登園は難しいとのことでした。このようなことも含め、通所される

保護者の皆様にはお子様から目を離さないよう、路上駐車はしないことを徹底して周知してまいります。

次に、朝日ヶ丘集会所の説明会でいただいたご意見の多くは、掘り込み式駐車場について、出入口の場所が危険であること、大規模造成になりますが、現時点で工事費がわからない、おそらく高額になると見込まれることから、反対であるというご意見でした。出入口の安全対策については、設置運営事業者に安全を考慮した設計を求めることに加え、例えば左折入出庫を徹底させる運用にするなど、市も事業者と協議をしてまいります。

また、朝日ヶ丘幼稚園南角の交差点で通行量の調査をいたしました。朝7時から9時においては車、バイク、自転車の車両の通行量は朝日ヶ丘公園から幼稚園へ向かう方が約70台程度、幼稚園から公園へ向かう方が約270台程度、夕方17時から19時では、公園から幼稚園へ向かう方が80台程度、幼稚園から公園へ向かう方が160台程度という状況でした。この結果からも幼稚園から公園へ向かう方の道路の方が、通行台数が多いため、公園から幼稚園へ向かう方の道路での、左折入出庫は妥当であると考えております。

次に、駐車場建設の費用と工期について、3頁、資料2をご覧ください。朝日ヶ丘幼稚園の現況図面です。後程説明いたしますが、この園舎は事業者が解体し、市で費用を補助したいと考えております。

4頁は概算の費用や工期を積算するため、地下駐車場を整備した計画例を作成したものです。なお、図面の詳細部分につきましては、今後事業者募集を控えており、事業者からの提案内容の創意工夫を図るため、非表示としております事あらかじめご了承ください。この積算で想定している概要としては、地下1階が駐車場、地上1、2階が園舎で、定員約200人規模の建物です。

次に、5頁をご覧ください。上半分が2階、下半分が地下駐車場の図面です。19台収容の想定をしています。実際は、選定された事業者が構想を描き提案することになりますので、この図面どおりにはならないと考えますが、市が考える費用面・工期面においても標準的なモデルとしてこの設計をもとに工期及び費用の概算を積算いたしました。

6頁、資料3をご覧ください。(1) 工事工程につきまして、平成32年4月から園舎解体に着手し、7月頃から土留めや掘削、建物の基礎等の工事、11月頃から地下駐車場の建設、12月中旬ごろから園舎建設・外構工事となり、建物の竣工が平成33年7月末となっています。平成33年4月開園を目指すには、開園準備期間も含めると、4～5か月ほど工期を早める必要がありますが、それは非常に困難であると見込んでいます。

また、表の下にあるように、転石等の可能性も含めこの工期からさらに時間がかかることも考えられます。

認定こども園の開園時期については、原則4月開園となっていますので、これらのことを踏まえますと、平成33年4月開園を1年遅らせ平成34年4月とする必要があると判断いたしました。1号認定のお子さんについては1年お待ちいただくこととなりますが、2・3号認定のお子さんについては、基本的には、翠ヶ丘町の仮園舎での運営を1年延長することで対応したいと考えておりますが、園舎の完成時期に応じた対策についても検討してまいります。

次に、(2)概算工事費について、先ほどの設計を基にした概算費用として、駐車場工事費は約2億1,000万円、解体工事は約7,000万円と積算しております。前提として、駐車台数は19台、駐車場の外構は現在の幼稚園のように石積みを復旧するとしています。なお、この費用には転石等の処理費は含まれておりません。

続いて、7頁、資料4をご覧ください。設置運営事業者の募集について、朝日ヶ丘認定こども園と認定こども園に移行するまでの間の仮園舎での保育施設両方の運営を行っていただきますので、それぞれの条件を記載しております。抜粋して説明いたします。認定こども園の整備について、場所は現市立朝日ヶ丘幼稚園で、敷地は、朝日ヶ丘小学校第2グラウンドの一部を含む約3,000㎡です。開園日につきましては、平成34年4月1日です。土地賃借料については、開園後10年間までは無償としており、その後は別途協議としております。建物は、事業者が新設することとし、既存の幼稚園園舎は事業者で解体撤去いただきます。補助金については、こちらに記載の補助金全てに共通することですが、該当年度の予算成立が前提条件です。新園舎の建設費については、国の整備補助を受けることとしています。市の負担としては、補助基準額に対して市の負担割合分となります。幼稚園舎の解体費につきましては、民間で工事を行いその費用を市が負担する方が、工期・費用面で効率的であるため、上限7,000万円で市単独補助を行いたいと考えております。駐車場建設費につきましては、上限2億1,000万円の市単独補助を考えております。

また、特記事項として、万が一事業者が認定こども園を運営しなくなった場合については、建設に係る国の補助に準じ、駐車場の建設にかかる市単独補助につきましても、補助金を返還いただくことを条件にしたいと考えております。また、土地については、事業者の費用で更地にして返還することを求めます。ただし、市が当該施設について、無償譲渡を求めたときはそれに応じることも条件にしたいと考えています。

続いて、仮園舎での保育施設について、場所は、岩園保育所大規模改修用の仮園舎の予定地である翠ヶ丘町の市営住宅跡地です。建物面積は約340㎡です。開園日は、小規模保育事業所は平成31年7月1日、認可保育所への認可変更は平成32年4月1日の予定としております。朝日ヶ丘幼稚園敷地の認定こども園に移行する平成34年3月末までの運営となります。建物については、岩園保育所大規模改修が終了した後の空いた仮園舎を市が低年齢児用の改修工事を行い、その仮園舎を使用させていただきます。建物の賃借料は、95,000円としておりますが、これは市がプレハブをリースしておりますので、そのリース代相当額を踏まえたものになっております。補助金につきましては、登園・降園時の警備委託を義務付けることから、その委託料の半額を上限額15万円として市単独補助したいと考えております。上限額の設定につきましては、岩園保育所大規模改修期間において警備員を配置する月額委託料を踏まえた額となっております。ここに記載の条件以外の募集要項につきましても、今までの公募における募集要項を踏まえ、選定委員会での協議を経た上で決定します。

最後に8頁、資料5をご覧ください。今後の主なスケジュールです。

本日説明会の後、募集要項を整え、8月15日から広報あしや等により公募を開始します。12月から選定委員会にて事業者の選定を行い、平成31年2月に事業者を決定します。市が仮園舎を小規模保育事業所に対応できるよう改修し、平成31年6月頃を目途に事業者による説明会を開催し、7月に仮園舎において小規模保育事業所を開園します。平成32年3月には、事業者による朝日ヶ丘幼稚園の解体・駐車場及び新園舎建設に係る工事説明会を開催し、4月から工事に着手します。また、仮園舎の小規模保育事業所は認可変更をして認可保育所として運営を始めます。認定こども園の工事期間が1年を超えることから、開園日は平成34年4月1日としております。

6月12日に議会に報告し、朝日ヶ丘幼稚園敷地の認定こども園整備に関していただいたご意見として、工事費が膨らんでいるので、転石が出た場合の費用の上限を設定できないかというご意見がありましたが、転石は地下にある為、実際に工事をしてみないとわからないので、費用の上限の設定は難しいと回答しております。また、駐車場出入口の安全対策について、誘導員を配置するべきではないか、というご意見につきましては、募集要項には「安全確保・法令順守」を条件とするので、安全対策については設置運営事業者が提案していただくものであると回答しています。駐車場を敷地に作らず、隣の朝日ヶ丘公園に作ればよいのではないかというご意見もいただきましたが、雨の日の登園などを考えると敷地内に駐車場を

設けることが最善であるので、幼稚園敷地に整備したいと回答しています。
長くなりましたが、説明は以上です。

(市 民) 平成は今年で終わりです。資料に平成と書かれているのはおかしいのではないですか。

(事務局和泉) 今回の資料につきましては、現在の元号で対応させていただいています。

(市 民) 市役所の方が揃っており、先ほど、朝日ヶ丘認定こども園の基本的な考え方をお聞きしましたが、翠ヶ丘町の仮園舎自体が、大きな問題があります。要するに、この仮園舎は交通上大変危険です。朝日ヶ丘認定こども園に関する説明会や翠ヶ丘町での説明会の議事録を全部拝読しました。やはり、ここで発言したいと思い、今日は来ました。認定こども園の設置に反対するものではありません。

元々は岩園保育所の建物が老朽化しているので改修しようということが発端だと聞いています。それは、大変大事なことです。いいのですが、その間の保育を仮園舎で行うということも当たり前の話だと思います。仮園舎の場所は、一戸建てが5戸あったところを更地にして、仮園舎を建てるというプランを考えられています。問題はその目の前の道路です。稲荷山線は阪急で切られておりまして、そこから迂回して全部車が踏切に流れています。岩園方面へ行くのもこちらから北側へ行きます。30分のうち21分も車両が通っています。そのため、9分しか安全に通れる時間がありません。また、天候のことを考えると、雨天で足元が悪い場合は、子どもと手を繋いでも、踏切を渡る時は危険です。車がどんどん出入りするので警備員を配置して規制しようとしていますが、警備員は何を規制するのか、車を規制するのか、登園児を守るように警備員は動くのか、警備員が南側に1人立っていても、北側からの車を規制することはできません。踏切は広いように見えましても片側通行しかできません。無理して対向する車もありますが、そうすると、歩行者の通路が非常に狭いです。踏切を渡り終えたところに溝がありまして、不注意で溝に落ちてしまいます。すごく危険だとよく話に出ます。仮園舎を平成34年まで使う、しかも小さな子どもが保護者と一緒としても、あの踏切を通ることは極めて危険です。大変怖いです。

もう一つ言いたいことは、朝日ヶ丘町と翠ヶ丘町は離れています。以前の説明会でも話がありましたが、車で送迎して、仮設園舎の横に車を停めて、子どもの乗り降りをさせることは車の停車に当たります。車から保護者が離れたら駐車です。8月15日から公募が始まるとのことですが、仮

園舎を使いたいという理由は分かりますが、その仮園舎を使用したいと思っている事業者の決定はまだ先の話です。市役所の方も重きを置いていませんが、実際は危険なことです。もし、車と車が衝突したとしたら、仮園舎から起因する事故ですから、全て芦屋市に責任があります。山中市長宛てに書き込みをしましたが、芦屋市がそこまで責任を取るといのであれば、どうぞしてください。しかし、大変危険です。それだけを発言して、退席いたします。

(事務局田中) 他にご意見はございませんか。それでは、特に無いようですので、説明会は終了いたします。時間がまだございますので、個別にご質問がございましたら、お答えいたします。明日も説明会がございますので、そこでのご意見も踏まえ、内容を反映し、ホームページ等に掲載させていただきます。また、いただいたご意見につきましては今後の施工等、運営においての参考とさせていただきます、安全・着実に整備を進めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

これにて説明会を終了させていただきます。

以 上